

謹んで新年のお慶びを申し上げます



船名	スペクトラム・オブ・ザ・シーズ
就航年	2019年
総トン数	169,379トン
全長	348m
全幅	49.24m
搭載人員	5,622人
乗組員数	4,905人



2020.1.1
NO.636号
全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27
☎06-6574-8424
☎078-303-0800
全港湾は一人
でも入れます

執行委員長 島山 昌悦



組合員の皆さん、ご家族

の皆さん、新年明けましておめでとございませう。皆さんにおかれましては、お健やかに新春をお迎えのことと存じます。今年も健康で災害なく安心して過ごせる一年であってほしいと願っています。

昨年を振り返ってみますと、令和新天皇即位、G20、参院選、ラグビーワールドカップ、消費税増税、東日本での相次ぐ台風被害など様々な出来事がありました。特に昨年末の臨時国会では、公的行事「桜を見る会」の私物化が大問題となり、「記録は破棄した」として安倍首相は虚偽答弁を連発し説明責任を逃れ、内閣府も首相を忖度し、ともに答えています。想起すれば安倍政権の7年間は、公文書の改ざんや隠蔽、破棄が繰り返され民主主義や国民を愚弄しています。そんな政権に7月の参

議院選挙では、1人区で野党共闘が10選挙区で勝利したことで、そして改憲勢力に3分の2の議席独占を阻止したことは大きな成果でした。社会福祉を切り捨て任期中の改憲に固執する安倍政権は今年こそ退陣に追い込まなくてはなりません。次の衆院選に準備して市民と野党の共闘をさらに発展させ、平和とくらしを安倍政治から「取り戻す」運動を進めましょう。

次に、港湾・運輸産業を取り巻く環境についてお話しします。一昨年から続く米中貿易摩擦の激化は世界経済に打撃を与えてきています。制裁関税に報復関税をお互いが発動し、強硬な通商政策の我慢比べが続けており、米中の世界のGDPに占める割合は約25%もあり、大きな影響を及ぼしています。年末には、中国が今後2年でアメリカからの輸入を約22兆円増やすことと関税の追加発動が回避されましたが、内需が鈍る中国には約束のハードルが高く、米国の供給能力にも不安があります。

ユーロ圏ではイギリスの1月末に決まったEU離脱、16年6月の国民投票での結果ではあるものの自国第一主義、難民移民の排斥を声高に極右政党の台頭が分裂の方向に向かい、経済への影響が心配されるとこ

ろです。国内では、トランプ大統領が一方的「日米FTA」を押し付け、遣伝子組み換え食品や農薬まみれの野菜の流通が不安視され、日本の食料自給率がさらに落ち込み、無能・亡食の国になる懸念が指摘されています。も一つは、徴用工問題に端を発する日韓関係です。日本は昨年7月から韓国向け輸出管理を厳格化する一方、韓国では日本製品不買運動で対抗、韓国政府が8月に日韓軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の破棄を通告(後に回避)するなど関係は悪化しました。繁華街から韓国入観光客が姿を消したとの印象は、組合員の皆さんも感じていることでしょう。

この問題も長期化すれば、日本経済に大きな打撃を与えることになりかねません。特に関西圏は韓国とのコンテナ船による貿易が旺盛ですから、その影響は私たちの経済活動を直撃する可能性があります。

日本経済も生産業を中心に減産減益が相次ぎ、東京オリンピック・パラリンピック後の景気低迷を危惧する企業が多く、先行きの不透明感が否めません。そして、日韓競争です。日興サービス社で日々検数業に従事する阪神・名古屋支部の組合員16名が、派遣先である一般社団法人日本

貨物検数協会(日検)名古屋支部に対して労働者派遣法40条の6(直接雇用申込みなし制度)に基づき、直接雇用される地位にあることを確認する訴訟を、2017年11月27日、名古屋地方裁判所に起こした裁判は、いよいよ佳境に入り1月16日、原告証人尋問が開かれます。本件提訴は、様々な違法に加えて、偽装請負・直接雇用拒否という違法を重なる日検の法的責任を果たさせるという意義を有しています。港湾運送事業の中核的役割を担う公益性の大きい日検が、改正労働者派遣法に従わず、偽装請負を行いながら直接雇用を拒否することは許されません。日検に法的、社会的、道義的な責任を果たさせ、改正労働者派遣法の目的である派遣労働者の雇用の安定確保が図られるためにも、阪神支部の総力を挙げて本件提訴の勝利を勝ち取らなくてはなりません。

最後に、港湾・運輸産業を取り巻く環境は厳しい局面が続きますが、皆さんの職場が事故なく、「活躍されますこと。また、本年も組合員とご家族の皆さんのご健勝とご多幸、そして益々のご繁栄を祈念しまして、阪神支部執行委員会を代表して新年の挨拶とさせていただきます。

団結、がんばろう！



16、17世紀のヨーロッパで横行した魔女狩りは拷問を伴った。例えば、魔女には痛みを感じないところがあるが体のどこかに必ずあるはずだとして、その場所を見つかるまで針を刺し続けた。疑われた人は痛みを耐えきれなくなり、魔女であることを「自白」するのだとか。自らに疑惑が降りかかるたび、トランプ米大統領が「魔女狩りだ」と反発したのは追及が上りたの針だと言いたいのだらう。政敵を陥れるため、トランプ氏がウクライナ政府に圧力をかけたとき、疑念をめぐり、米下院が弾劾訴追を決議した。史上3人目の不名誉であるトランプ氏にとっては不利な証言が続いているが、これから上院で行われる弾劾裁判はその政党勢力図からみて、「無罪」になる公算が高いはずだ。米国民の関心はなぜか低いという。次から次へと出てくる大統領のよからぬ疑惑にすっかり慣れつつになつてしまえば、怒りの鈍化しているのだとすれば、何だかそれが恐ろしい魔法のように思えてくる。遠い国の話ではない。

「森・加計」「桜」「隠蔽」改竄・虚偽への怒りを鈍化させることなく追及の手を緩めるべきではない。

日検・MO抗議宣伝行動 社会的責任を果たさない企業には たたかっ行動をゆるめるな!

12月19日(一社)日本貨物検査協会(以下日検)本社抗議行動を阪神支部10名、東京支部11名、名古屋支部4名の総勢25名で取り組みました。東京支部の皆様に対しては、いつも応援に駆けつけて頂き誠にありがとうございました。

日検に対しては、阪神支部への団体交渉拒否(中央労働委員会)、阪神支部と名古屋支部の組合員16名による直接雇用を求める訴訟(名古屋地裁判所)、名古屋支部西脇書記長賃金力ツトへの不誠実団体交渉(愛知県労働委員会)への抗議行動として今回で7回目の行動となりました。しかし日検の対応は労使関係があるにもかかわらず、私たちの宣伝力を見るや否や、相変わらず顔を引くつらさ態度は回数を追うことに悪くなって行きます。今回の申し入れ行動で本社屋に阪神支部松本副委員長と入りま

が、松本副委員長は日検職員の状態の悪さに「社会人として、人として」と嘆かない」と嘆か



日検本社にて申し入れ行動

名古屋支部書記長 西脇 敬

暴な態度を改めさせるために、広く港灣関係に訴えかけ、法廷闘争も並行して全力でたたかいをすすめていきます。

日検のこの様な無礼で横暴な態度を改めさせるために、広く港灣関係に訴えかけ、法廷闘争も並行して全力でたたかいをすすめていきます。

日検抗議行動の翌日。管理職組合発足からの阪神支部の分断と弱体化を狙ったジャパンエクスプレスの混乱はこれまでもその都度の報告で周知の通りでありましたが、未だ商船三井の親会社としての誠意ある対応もありません。一刻も早く問題の収束をさせ、ジャパンエクスプレス分会の運営を正軌道に戻すため夏に続き再度、(株)商船三井本社に対し抗議の宣伝行動を行いました。



MO本社前で抗議文書を手渡す

前同様、東京虎ノ門の本社前において、朝の出動時間をねらい阪神支部10名、名古屋支部と東京支部の仲間と共に街宣抗議行動に取り組みました。

我々が本社前に到着したときにはすでに4名の警備員が配置され、前回以上に緊迫した雰囲気の中での行動開始となりました。

前同様、東京虎ノ門の本社前において、朝の出動時間をねらい阪神支部10名、名古屋支部と東京支部の仲間と共に街宣抗議行動に取り組みました。

前同様、東京虎ノ門の本社前において、朝の出動時間をねらい阪神支部10名、名古屋支部と東京支部の仲間と共に街宣抗議行動に取り組みました。

20春闘では両方とも難しい問題ではありますが、一歩でも前進できるように頑張りたいと思います。

20春闘では両方とも難しい問題ではありますが、一歩でも前進できるように頑張りたいと思います。

20春闘では両方とも難しい問題ではありますが、一歩でも前進できるように頑張りたいと思います。

20春闘では両方とも難しい問題ではありますが、一歩でも前進できるように頑張りたいと思います。

新年の抱負

菱倉運輸分会

2019年、菱倉運輸分会は冬季・夏季一時金に關してはまずまず納得のいく結果で終える事ができましたが、19年春闘では付帯要求にあげている定年延長、加変能率給の固定化は進展がなく、今後の課題となりました。



分会長 小林 公年

ジャパンEXP分会

昨年は管理職組合の結成により分会から過半数の移籍がありました。当初は管理職だけの組合を結成すると聞きましたが、蓋を開けると分会員の勧誘・引き抜きにより分会を弱体化させる不当労働行為(支配介入)を行ってききました。

昨年は管理職組合の結成により分会から過半数の移籍がありました。当初は管理職だけの組合を結成すると聞きましたが、蓋を開けると分会員の勧誘・引き抜きにより分会を弱体化させる不当労働行為(支配介入)を行ってききました。

神支部の担当者で数回分会員に説明会を行い、「色々な情報が飛び交っているが、デマに惑わされないように」と伝え、疑問にも答えてきましたが、管理職組合の勧誘の勢いは増し、連鎖的に組合員の脱退・移籍が増えていきました。

さらには、管理職組合が親会社である商船三井のコンプライアンス委員会にジャパンエクスプレス社に対する訴えを起こしたためにジャパンエクスプレス社の動きが制限され、支部や分会が会社に訴えても進展はありませんでした。

現在、管理職組合の執行役員は会議への参加や人事異動の拒否を繰り返して、正常な業務の妨げとなっています。

このような混乱や騒動をどのように解決するのか会社や商船三井にはつきりさせるためにもたたかいを継続していきます。

分会長 西田 哲也



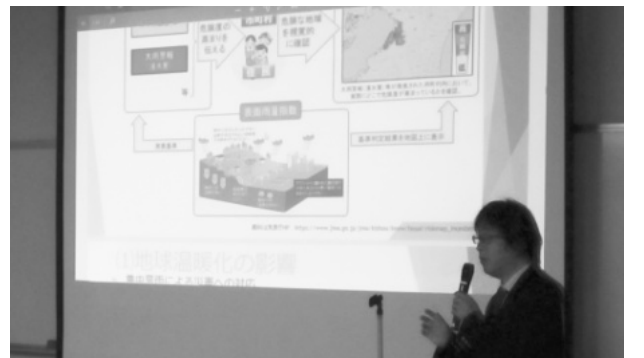
第34回支部安全衛生委員会総会 命を最優先にする運動を

2018年度の取り組みを総括する第34回定期総会を11月29日に神戸市勤労会館に於いて開催し、所属する企業・組合に加え、行政や安全団体、各労働組合の代表者から来賓として挨拶を頂きました。

支部代表挨拶の中で河野書記長は、一昨年の年末から年明けにかけて、全港灣の組合員4名が労災事故により殉職されている事、被災者は20代の若者が中心である事を報告され、パワハラなどが社会問題となる中で、職場での「コミュニケーション」

シヨンが希薄になっているのではないかと危惧されています。併せて先月にも横浜で死亡災害が発生しているとの報告がされ、安全衛生委員会の果たす役割はますます高まっていると述べられました。

総会の中では特別講演を行い、国土交通労働組合の平田喜久男氏をお招きし、「堤外地の危険予知と対応」のテーマで講演頂きました。



平田氏の講演を「きっかけ」に！

阪神支部関連では幸い人的被害は発生していないとの認識ですが、JRの計画運休に代表されるように、身の安全を最優先とする機運が全国的にも広がっています。また、近い将来の発生が危惧されている南海トラフ巨大地震への対策も含め、企業の安全配慮義務がますます求められています。

支部では春闘時の統一集団交渉の場で企業側に対し、「自然災害発生時の対策マニュアル作成」を要請しましたが、具体的な取り組みの前進が見えてきていない現状です。このような現状を打破していくことを

毎にできる具体的な取り組みを紹介して頂きました。今後のマニュアル確立のきっかけとしてもらいたいと考えていますが、企業側はもちろん、組合員が積極的に関心を持ちながら議論をしなければ取り組みの実現はありません。

この日は、委員を含めた労使の参加が56名に留まり、例年と比較してもやや少ないと感じています。開催告知も統一交渉などの場で繰り返し行いましたが、今一度振り返り、改善につなげていきたいと思えます。

私たち安全問題に関わる者としては、職場に潜む危険に對してどのように防衛していくのか、事故が起る算要求の5300億円から4111億円に圧縮されました。年金はまたも実質削減です。介護、医療も一層改善する方針です。国民にとつて、増税と社会保障改悪の「二重苦、三重苦になる」予算案です。

本来、国民の負担能力に「応じた」負担能力に「応じた」税金を集め、国民のために使つべき財政を、大企業や軍拡で米国のために使つのは国民をないがしろにする政治そのものです。

大企業優遇と軍拡米国追随をやめ、暮らしに予算を回すべきです。

市民を分断する 維新政治にストップを！

都構想ストップ！豊かな大阪をつくる府民の集い

大阪都構想実現に向けて暴走する大阪維新の会の繰り返される市民分断の政治に反対する「都構想ストップ、豊かな大阪をつくる」が27府民のつどい「ガエルおおさか」で開催され、約700名が集まりました。

この日の特別講演には、大阪革新懇代表世話人、関西学院大学教授の富田宏治さんが招かれ、維新は、中堅サラリーマン層や自営上層の「勝ち組」的気分感情に對するポピュリスト的煽りを行い、市民を分断させ、貧困と格差の拡大で分断の組織化と固定化をしていると主張されました。夢洲での万博開催やカジノ建設も含め、大阪をバラバラにし、一度は決着した住民投票を再び実行しようとする維新に對抗するには、政治に對して無関心な市民を選挙や住民投票に参加させる働きかけが必要であると説かれ、今こそ市民がひとつになつて限界を見せた維新をストップさせようとする

私たちが働く港頭地区では、ベイエリア巨大開発計画によつて多くの税金が投入されようとしています。また、昨年の台風被害を目的のたりにし、災害に對して脆弱性を見せる夢洲の開発を筆頭に、特別区再編などのまやかしの政治を見過ごす事は出来ません。

今こそ維新政治をストップし、貧困と生活不安を一掃し、市民が安心できる暮らしを取り戻すためにも組合員や共闘組織の共同を広げていく必要があるのではないのでしょうか。

書記次長 入江 友規

主張

財政のゆがみを正し、福祉と国民の暮らしに予算を

作年末に安倍内閣が2020年度の政府予算案を閣議決定しました。一般会計の総額は102兆6580億円となり、過去最大を更新しました。19年度補正予算案と合わせると、「15カ月予算」の総額は一般会計で106兆円に迫ります。安倍首相の政権復帰以来増え続けてきた軍事費は、過去最大の5兆3133億円となりました。一方、社会保障費は高齢化などに伴う自然増分を約1200億円カットする国民に冷たい予算です。

二つの予算案はまもなく

開かれる通常国会に提出・審議されます。財政は国民の血税を使って景気を調整したり所得を再分配したりするもので、国民の暮らしへの応援を最優先させるべきものです。

巨額の予算も、昨年10月からの消費税率の引き上げや米中、日韓の貿易報復合戦で景気の悪化が鮮明になり、新たな「経済対策」を打ち出さざるをえなくなつた政治のツケのためです。

消費税を増税したこと、20年度の消費税収は過去最大の22兆円に迫る見込みで、これまで最大の税目だった所得税を上回りま

行額の合計は、900兆円を超す見通しです。

予算案での軍事費増額は、安倍政権復帰から8年連続です。新たに米国からの戦闘機の取得や、「いずも」型護衛艦の空母への改造を押し付けながら、軍

修費などが盛り込まれ、沖縄の米軍辺野古新基地の建設費の増額も重大です。

こつした一方、国民の暮らしに直接かわる社会保障予算は、高齢化などに伴う増額分が厚生労働省の概

算要求の5300億円から4111億円に圧縮されました。年金はまたも実質削減です。介護、医療も一層改善する方針です。国民にとつて、増税と社会保障改悪の「二重苦、三重苦になる」予算案です。

本来、国民の負担能力に「応じた」負担能力に「応じた」税金を集め、国民のために使つべき財政を、大企業や軍拡で米国のために使つのは国民をないがしろにする政治そのものです。

大企業優遇と軍拡米国追随をやめ、暮らしに予算を回すべきです。

私たちが働く港頭地区では、ベイエリア巨大開発計画によつて多くの税金が投入されようとしています。また、昨年の台風被害を目的のたりにし、災害に對して脆弱性を見せる夢洲の開発を筆頭に、特別区再編などのまやかしの政治を見過ごす事は出来ません。

今こそ維新政治をストップし、貧困と生活不安を一掃し、市民が安心できる暮らしを取り戻すためにも組合員や共闘組織の共同を広げていく必要があるのではないのでしょうか。

書記次長 入江 友規

第28回青年部総会

目的を持ち一丸となって行動しよう!

12月5日、第28回阪神支部青年部総会をポルトオアシスで開催し、阪神支部から来賓1名、青年部役員10名、分会参加者26名、総勢37名が参加しました。



井ノ元副委員長

支部来賓の挨拶では井ノ元副委員長より「祇園精舎の鐘の声道行無常の響きあり」という平家物語の冒頭の一節を紹介され、「毎日毎日、同じことの繰り返しで変化のないように感じるけれど日々時間は流れている。必ず状況は刻々と変わってきています。ただただ年を重ねていくよりも、青年のうちしかできない活動を今のうちに精一杯取り組んでほしい。何かに興味をもち、何かを見に行き、何かを学ぶと、そこには確実に違う世界が広がります。是非みなさんも、頭が柔らかい若い間に、沢山の事を見て沢山さんの事を学んで頂きたいと思えます。色々なイベントに家族も含め、参加協力して頂けたらと思います」と、激励されました。

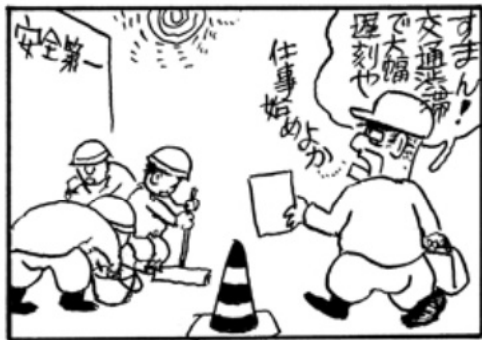
昨年の沖縄平和行進で5日間の日程で参加した古川部員からの報告では、「日本の米軍基地の70%が沖縄に集中していることに、違和感を覚えると共に、平和行進に際して、多くの関係者の協力・尽力により参加できていることを実感した。今回の平和行進への参加は、在日米軍基地問題を考える貴重な機会となり、大変意味のあるものとなりました」と思いを述べました。

次に、第22回全国青年対策交流会議では、福島県いわき市へ3日間の日程で参加した篠崎部長と鈴木部員の報告がありました。鈴木部員からは「1日目の分散会で原発について必要か不必要かを議論し、その時はまだ原発は必要だと感じていたが、2日目の被災地のフィールドワークに参加し、現地の悲惨な状況を目



活動報告をする篠崎部長

カマヤん 経験豊か ありむら潜



された、「関西は、原発が近くにないのだからか当事者意識がないが、福井県にある数多くの原発が事故を起こした場合は被害を受け、琵琶湖も被害を受け、二次被害三次被害に繋がる可能性があり、決して遠いところの話ではなく、身近な問題である」と事故が起きた際の放射能の飛散量をシミュレーションをした資料とともに、思いを述べました。その後、活動報告と総括、来期の方針を提案されました。

閉会で鈴木部員は「東北地方の青年層との交流で感じたのは『熱量の差』でした。力の入り方が違いました。正直自分の中で青年部の活動にそこまで意義を見いだせていないものもありましたが、他支部の一丸となった活動を聞くところやましくもありました。いま現在、青年部では人数を増やそうという動きがありま

改めて当たり前のようにごして毎日は、実は当たり前ではなく、青年層の内に行き詰まりがないと思えるのは、社会勉強や労働学習を通して、力を合わせていく事を学び、深め合っべきだと感じています。組合員として運動や団結に繋げていくためにも、青年層の内に育むことに意義があると感じました。青年部長 篠崎 謙悟

分かるかな？

懸賞クイズ



【問題】日本語の問題です。旧暦で毎月、月の初め1日を朔日(さくじつ・ついたち)と言い、月の最終日を晦日(みそか・つごもり)と言います。年末12月31日は年の最終日なので大晦日となるわけです。正月は何月何日から何月何日まででしょう？

635号の回答 「7」

20名の方から応募があり、全員が正解でした。抽選の結果、以下5人の方にQUOカードを進呈します。

小山克典・築頼浩二・大村達也・相原翼・中山正也(大運)

636号の締め切り日は、2月10日(月)です。ふるってご応募ください。